

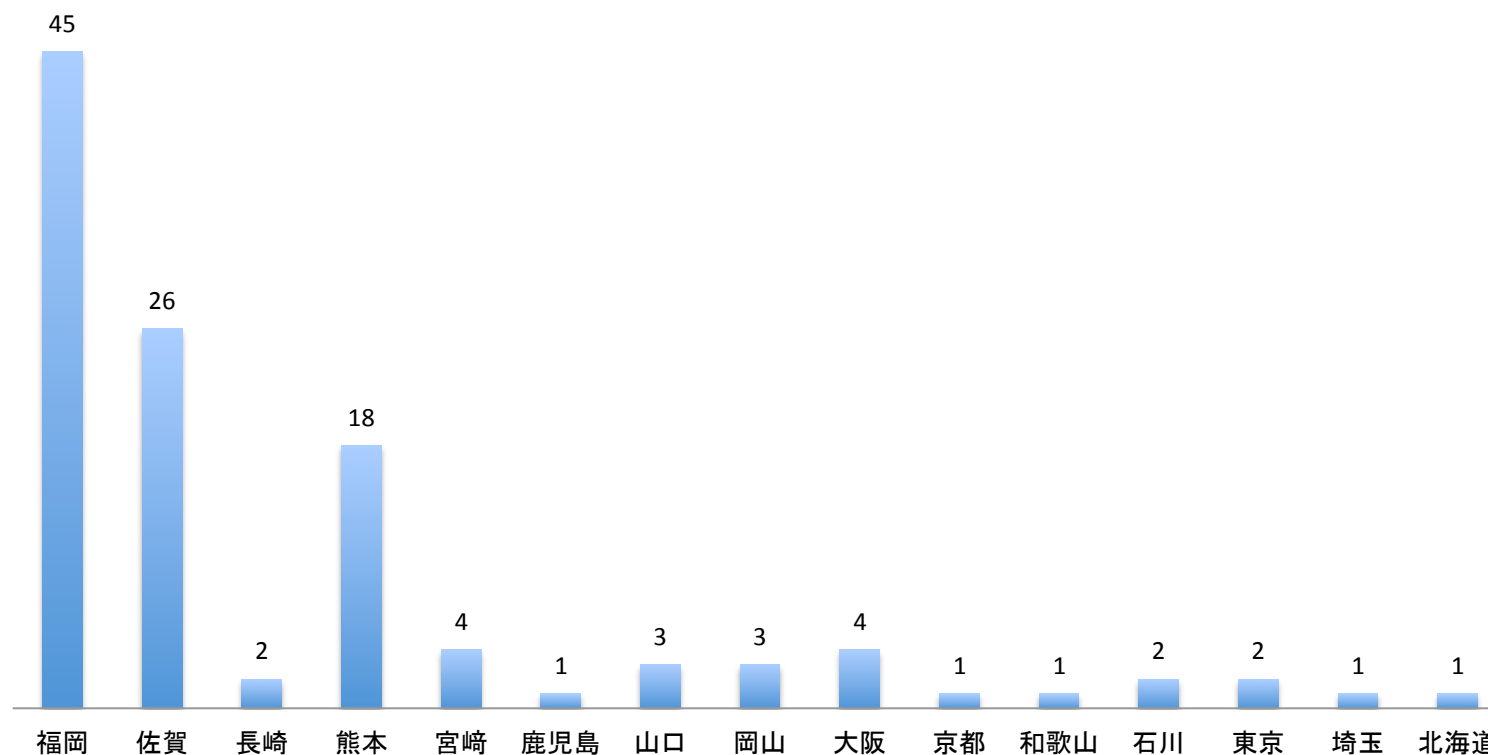
博物館は、
コミュニティの
一員である。

The **museum** is a member of the community.

科研費
KAKENHI

平成26年度学芸員技術研修会、国際フォーラム事業報告書

学芸員技術研修会及び国際フォーラム参加者数(県別) 総計114名



今回は、九州産業大学、九州産業大学美術館、平成26年度科学研究費助成事業(学術助成基金助成金)基盤研究(C)「新学芸員養成課程に対応するユニバーシティ・ミュージアムの方策研究」(研究課題番号:24501274、研究代表者:緒方泉)の連携協力による研究成果を報告する。

研究の目的

2011年2月に閣議決定した「文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)」で、「劇場、音楽堂、美術館、博物館等の文化施設や文化財に関わり、専門的な技能をもって支える人材について、研修機会等の支援策を充実する」とした。さらに2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、地域社会の一員として訪日外国人を迎える博物館の活性化は急務な課題となっている。

しかし、全国で働く6,000名を超える学芸員は、研修場所が東京で、さらに2泊3日程度で研修会が開催されることから、予算面はもちろん、学芸業務をほぼ一人で担当しているため、なかなか研修に参加できない状況がある。こうしたケースの解消方策として、各地域に学芸員養成課程を開講する大学(平成25年4月1日現在、300大学)と附属機関に博物館実習施設を有する大学博物館(平成26年度現在、約100館)を活用することが考えられる。

今回、九州産業大学美術館が中核となり、佐賀大学美術館、熊本県立美術館の協力を得て、学芸員のリカレント教育の場となる、学芸員技術研修会(展示制作、照明技術、展示グラフィック)、国際フォーラムを実施した。

それぞれのアンケート調査を基に研修の効果を分析することから、今後の地域毎の高度博物館人材育成に係る新たな教育モデルの構築に向けた予備的研究を行った。

平成 26 年度

学芸員 技術研修会



■ 研修分野

展示制作1 9月6日(土) 熊本県立美術館

展示制作2 9月7日(日) 九州産業大学 ※1と2は同内容です。

■受講料：無料 ■受付メールアドレス：museum03@ip.kyusan-u.ac.jp

平成 23 (2011) 年 2 月に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針 (第 3 次)」では、博物館に関して、「企画展示技術の向上」「文化財等の適切な保存管理」、また「館種を超えた連携協力」、さらに、博物館人材に関して「教育普及」「ナレッジメント、保存修復」などの学芸員の養成などについて普及しています。また、今年 3 月に出了れた「文化芸術立国中期プラン」では、平成 32 (2020) 年の東京オリンピックに向け、文化力の計画的強化を提唱し、学芸員を含む文化芸術人材の育成のための実践的なカリキュラムの開発に芸術系大学の活用をあげています。

本研修会は、こうした国の動きに呼応した芸術系大学が地域博物館と連携協力しながら、学芸員の育成支援を図る目的で開催するものです。

主催：九州産業大学、九州産業大学美術館、平成 24 年度科学研究費助成事業 (学科研究助成金) 基礎研究 (C)
「新学芸員養成課程に対応するメーパレンティ・コミュニティの方策研究」(研究課題番号：24501274、研究代表者：緒方泉)
協力：九州大学総合研究博物館、西南学院大学博物館、佐賀大学美術館、熊本県立美術館、福岡県博物館協議会、佐賀県博物館協会、熊本県博物館連絡協議会 (調整中)



※写真は前回の研修会の様子です

「作品リストはできたけれど、
これらをどう展示しようか？」

「来館者に伝わる展示にするには
どうしたらいいか？」

と日々思索する皆さん。

今回は

「展示はコミュニケーションである」

という視点から、多くの展示制作事例の紹介とともに、
グループワークで実際に展示ラフ案の作成方法を学びます。

受講上の留意点 展示制作1と2は同じ内容です。参加できる会場をお選びください。

■ 展示制作1 熊本県立美術館

開催日時	平成26年9月6日(土) 10:00~17:00
講師	洪 恒夫 (東京大学総合研究博物館 特任教授)
会場	熊本県立美術館 (バスまたは市電「市役所前」下車、徒歩5分)
対象	伝わる作品展示方法で悩んでいる博物館関係者、 大学教員等
内容	09:30 受付 10:00 自己紹介、「展示制作」の悩みの共有 11:00 展示制作の事例紹介 (展示はコミュニケーションツールである) 12:00 昼食 13:00 グループワーク (伝わる展示をデザインする) 14:30 展示案発表 15:30 展示制作のツボを解説する 16:30 ふりかえり 17:00 終了
定員	30名 (定員を超えた場合は抽選とします)
備考	最近実施した展覧会の展示図面及び会場写真があれば持参してください。

■ 展示制作2 九州産業大学

開催日時	平成26年9月7日(日) 10:00~17:00
講師	洪 恒夫 (東京大学総合研究博物館 特任教授)
会場	九州産業大学 (JR 鹿児島本線「九産大前駅」下車、徒歩5分)
対象	伝わる作品展示方法で悩んでいる博物館関係者、 大学教員等
内容	09:30 受付 10:00 自己紹介、「展示制作」の悩みの共有 11:00 展示制作の事例紹介 (展示はコミュニケーションツールである) 12:00 昼食 13:00 グループワーク (伝わる展示をデザインする) 14:30 展示案発表 15:30 展示制作のツボを解説する 16:30 ふりかえり 17:00 終了
定員	30名 (定員を超えた場合は抽選とします)
備考	最近実施した展覧会の展示図面及び会場写真があれば持参してください。

申込方法

メールにて受付 以下の項目を記入し、希望する研修一つに申込をお願い致します

- ①件名：学芸員技術研修会 (参加したい研修番号を記入)
- ②内容：氏名 (ふりがな)、所属、職名、勤続年数、連絡メールアドレス、
研修会に期待すること (講師に一言)
- ③受付メールアドレス：museum03@ip.kyusan-u.ac.jp
- ④申込締切 平成 26 年 8 月 4 日 (月) 採否の通知は 8 月 6 日 (水) までにお知らせ致します

お問合せ先
九州産業大学美術館 教授 緒方泉 電話 092-673-5160
メールアドレス：museum03@ip.kyusan-u.ac.jp

研修会① 展示制作

平成26年9月6日(土)熊本県立美術館
洪 恒夫(東京大学総合研究博物館 特任教授)



・展示制作する際の具体的な手順を学ぶことができました。これまでは「何を伝えたいのか」「どう伝えるのか」しか考えていませんでした。今後は、「どうすれば観る人を楽しませることができるか」という点も考えながら展示制作をしていきます。

研修会① 展示制作

平成26年9月6日(土)熊本県立美術館
洪 恒夫(東京大学総合研究博物館 特任教授)

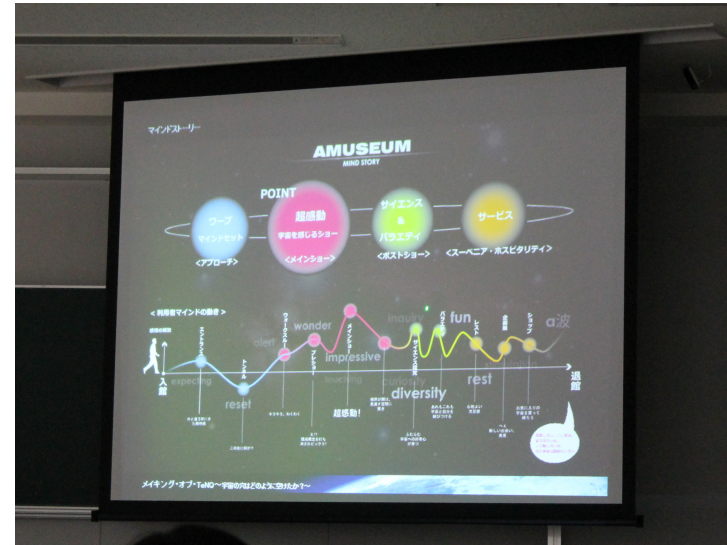


・班で1つの展示案を作ったことはとても印象に残っています。これまでは1人で苦しんで悩んでいたのが、新鮮な経験でした。職場ですぐ実践は難しいですが、積極的に周りの意見を聞くようにします。

研修会② 展示制作

9月7日(日)九州産業大学

洪 恒夫(東京大学総合研究博物館 特任教授)



・様々なパターンの展示を学んだので、今後の展示活動に役立てたいと思いました。特に、展覧会担当が一番見て欲しいところは、利用者に「見せびらかす」くらいの気持ちで展示制作に臨みたいです！

研修会② 展示制作

9月7日(日)九州産業大学

洪 恒夫(東京大学総合研究博物館 特任教授)



・展覧会の展示を考える際、どのようなことに重きを置くか実際の事例を紹介してもらいながら学ぶことができてよかった。

また同じ課題を他館の受講生がどのように展開されているか、自分と違う視点で考えているところは、目からうろこがおちることが多く、有意義だった。

平成 26 年度

学芸員 技術 研修会



■ 研修分野

照明技術基礎編 10月9日(木) 九州産業大学

照明技術中級編 10月10日(金)～11日(土) 九州産業大学

■受講料：無料 ■受付メールアドレス：museum03@ip.kyusan-u.ac.jp

平成 23 (2011) 年 2 月に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針(第 3 次)」では、博物館に関して、「企画展示技術の向上」「文化財等の適切な保存管理」、また「館種を超えた連携協力」、さらに、博物館人材に関して「教育普及」「マネージメント、保存修復」などの学芸員の養成などについて言及しています。また、今年 3 月に出席した「文化芸術立国中期プラン」では、平成 32 (2020) 年の東京オリンピックに向け、文化力の計画的強化を提唱し、学芸員を含む文化芸術人材の育成のための実践的なカリキュラムの開発に芸術系大学の活用をあげています。

本研修会は、こうした国の動きに呼応した芸術系大学が地域博物館と連携協力しながら、学芸員の育成支援を図る目的で開催するものです。

主催：九州産業大学、九州産業大学美術館、平成 24 年度科学研究費助成事業(学芸員研究助成金) 基礎研究(C)
「学芸員養成課程に対応するユニバーシティ・ミュージアムの方策研究」(研究課題番号：24501274、研究代表者：緒方泉)
協力：九州大学総合研究博物館、西南学院大学博物館、佐賀大学美術館、熊本県立美術館、福岡県博物館協議会、佐賀県博物館協会、熊本県博物館連絡協議会(調整中)

■照明技術基礎編

「毎回、展示照明は悩むよなあ」という皆さん。今回はハロゲン電球、LEDを用いて、作品を魅せるための展示空間の作り方を学習します。また、導入が進む LED について、そのガイドラインについて解説します。

開催日時	平成 26 年 10 月 9 日(木) 10:00～17:00	対 象	展示ライティングの基礎を知りたい、LEDの選択方法を知りたい学芸員、大学教員等
内 容	09:30 受付	14:00	グループ発表 (工夫した照明演出について説明する)
	10:00 自己紹介、「展示照明」の悩みの共有	15:00	照明のプロがグループの展示空間を解説する
	10:30 照明の基礎を知る	16:00	グループワーク (解説を踏まえて展示空間の再構築)
	12:00 昼食	16:30	発表、振り返り
	13:00 グループワーク (ハロゲン電球、LED を使って展示空間を作る)	17:00	終了
	定 員	30名 (定員を超えた場合は抽選とします)	備考

■照明技術中級編(2日間)

「展示空間全体の照明を統一感あるように見せるにはどうすればいいのか」「立体物の照明はどこを注意すればいいのか」。昨年度基礎編を学んだ皆さんのための中級編です。ハロゲン電球、LED等を用いて、作品を魅せるための展示空間全体の構成の仕方をグループワーク中心に学習します。

開催日時	平成 26 年 10 月 10 日(金)～11日(土) (10:00～17:00、なお 11 日の終了は 16:00)				
対 象	昨年度「学芸員技術研修会(照明技術)」受講修了生	定 員	30名 (定員を超えた場合は抽選とします)		
1 日目	9:30 受付	2 日目	9:30 受付		
	10:00 ①自己紹介 ②昨年度受講後、現場で活用していることの紹介		10:00 昨日のふりかえり(今日の学習目標の設定)		
	10:30 復習「照明技術の知識」		10:30 グループワーク(他の展示空間を意識しながら、全体の照明を作る)		
	12:00 昼食		12:00 昼食		
	13:00 グループワーク (ハロゲン電球、LEDを使って展示空間を作る)		13:00 グループ発表 (工夫した照明演出について説明する)		
	14:00 グループ発表 (工夫した照明演出について説明する)		14:00 照明のプロが全体の展示空間を解説する		
	15:00 照明のプロがグループの展示空間を解説する		15:00 ここは押さえておきたい「照明技術の知識」		
	16:00 グループワーク (解説を踏まえて展示空間の再構築)		15:30 ふりかえり		
	16:30 発表、振り返り		16:00 終了		
	17:00 終了				
	備 考		・脚立を使った作業をしますので、動きやすい服装、手袋を準備してください。 ・宿泊施設は各自手配願います。		

申込方法

メールにて受付 以下の項目を記入し、希望する研修に申し込みをお願い致します。

- ①件名：学芸員技術研修会(参加したい研修番号を記入)
- ②内容：氏名(ふりがな)、所属、職名、勤続年数、連絡メールアドレス、研修会に期待すること(講師に一言)
- ③受付メールアドレス：museum03@ip.kyusan-u.ac.jp
- ④申込締切 平成 26 年 9 月 17 日(水)

採否の通知は 9 月 19 日(金)までにお知らせ致します

お問合せ先
九州産業大学美術館 教授 緒方泉 電話 092-673-5160
メールアドレス：museum03@ip.kyusan-u.ac.jp

研修会③ 照明技術基礎編

平成26年10月9日(木) 九州産業大学美術館

藤原 工(株式会社灯工舎 代表取締役)

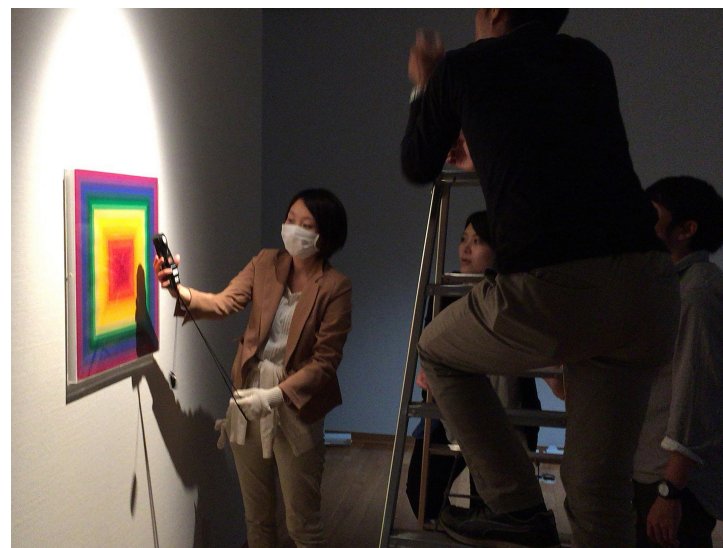


- ・照明機材の種類、名前、そして使い方、その効果を学びました。そして、事例を見ながら、作品を保護しつつ、美しい照明と悪い照明の判断基準について知る機会になった。
- ・照明の様々な機材と技術の使い方次第で、ライティングの幅が広がることがわかった。今後は、可能な限り徹底的にこだわるべきだと感じた。

研修会③ 照明技術基礎編

平成26年10月9日(木) 九州産業大学美術館

藤原 工(株式会社灯工舎 代表取締役)



・今後主流になっていくであろうLEDを、実際に複数扱ってみて、色温度や当てる角度で展示物の見え方が大きく異なることがわかった。照明だけでなく、アクセサリも扱えたことが良かった。初めて見る器具もあり、見せ方の幅が広がった。

研修会④ 照明技術中級編

平成26年10月10日(金)～10月11日 九州産業大学

藤原 工(株式会社灯工舎 代表取締役)



・基本的な照明に対する考え方や照明器具の様々なオプションを知る機会となった。ことができた。また、今後は測定器を使って、照度、色温度を計測したり、額への映り込みを想定したりしながら、展示空間を作っていきたい。

研修会④ 照明技術中級編

平成26年10月10日(金)～10月11日 九州産業大学

藤原 工(株式会社灯工舎 代表取締役)



・空間全体をまとめるために高さを合わせたり、照度の低い作品に合わせてたり、壁に当てたライトで整えたりと、照明を活用した演出方法は色々ある事を学んだ。また照明器材は使い方のアイデア次第だなと思った。

研修会④ 照明技術中級編

平成26年10月10日(金)～10月11日 九州産業大学

藤原 工(株式会社灯工舎 代表取締役)



・今回、経験したこと、アドバイスいただいたことは、まだ十分に消化できていないけれど、自館でできることは実践していきたいです。注意点が思った以上に多くあり、他館の展覧会を見に行った時に粗探しと良い点を見つけてまねしてみようと思います。

平成 26 年度

学芸員技術研修会



「デザインのノウハウを学びたい！」
「印刷業者とのやりとりが難しい...」
「読みたくなるパネルの作り方は？」

と日々悩む学芸員の皆さん。

研修会のお知らせです！



※ 研修分野

展示グラフィック

佐賀大学 12月17日(水)

九州産業大学 12月18日(木)

※ 両日とも研修内容は同じです。参加できる会場をお選びください。詳しくは裏面に

※ 講師 熊谷 淳一 (株式会社ノイエデザイン代表取締役)

※ 受講料：無料

※ 受付メールアドレス：museum03@ip.kyusan-u.ac.jp

平成 23 (2011) 年 2 月に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針 (第 3 次)」では、博物館に関して「企画展示技術の向上」「文化財等の適切な保存管理」、また「館種を超えた連携協力」、さらに博物館人材に関して「教育普及」「マネジメント、保存修復」などの学芸員の養成などについて言及しています。また、今年 3 月に出版された「文化芸術立国中期プラン」では、平成 32 (2020) 年の東京オリンピックに向け、文化力の計画的強化を提唱し、学芸員を含む文化芸術人材の育成のための実践的なカリキュラムの開発に芸術系大学の活用をあげています。

本研修会は、こうした国の動きに呼応した芸術系大学が地域博物館と連携協力しながら、学芸員の育成支援を図る目的で開催するものです。

主催：九州産業大学、九州産業大学美術館、平成 26 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C) **科**研費

「新学芸員養成課程に対応するユニバーシティ・ミュージアムの方策研究」

(研究課題番号：24501274、研究代表者：緒方泉)

協力：九州大学総合研究博物館、西南学院大学博物館、佐賀大学美術館、福岡県博物館協議会、佐賀県博物館協会

展示グラフィック

12月17日(水) 佐賀大学 (JR 佐賀駅下車バス 15分)

12月18日(木) 九州産業大学 (JR 九産大前駅下車徒歩 5分)

※ 両日とも研修内容は同じです。参加できる会場をお選びください。



最近ではポスター、チラシ、展示パネル等を予算の関係から学芸員が行うケースが多くなっています。今回は視覚伝達効果が高いデザインをするための「配置」「文字」「色」「キャッチコピー」などについて、グループワークも取り入れながら解説します。

対象 博物館のポスター、チラシ、展示パネルのデザインで悩んでいる博物館関係者、大学教員等

9:30 受付

10:00 自己紹介、「展示グラフィック」の悩みの共有

10:30 グループワーク (他館のチラシデザインの相互評価)

12:00 昼食

13:00 相互評価についてグループ発表

13:30 デザインのプロによるチラシデザイン診断

14:30 デザインのツボを解説する

15:30 グループワーク (デザインラフを考える)

16:30 発表、ふりかえり

17:00 終了

定員 30名 (定員を超えた場合は抽選とします)

受講上の留意点 最近作成した展覧会チラシ、展示パネルを持参してください。



学芸員同士で悩みの共有



講師からのアドバイス



デザインラフを考える

※ 写真は昨年度の研修のようすです。

申込方法

メールにて受付をします。以下の項目を記入し、希望する研修にお申し込みください。

- ① 件名：学芸員技術研修会 (参加したい研修番号を記入)
- ② 内容：氏名 (ふりがな)、所属、職名、勤続年数、連絡メールアドレス、研修会で学びたいこと (講師に一言)
- ③ 受付メールアドレス：museum03@ip.kyusan-u.ac.jp
- ④ 申込締切 平成 26 年 11 月 7 日 (金)

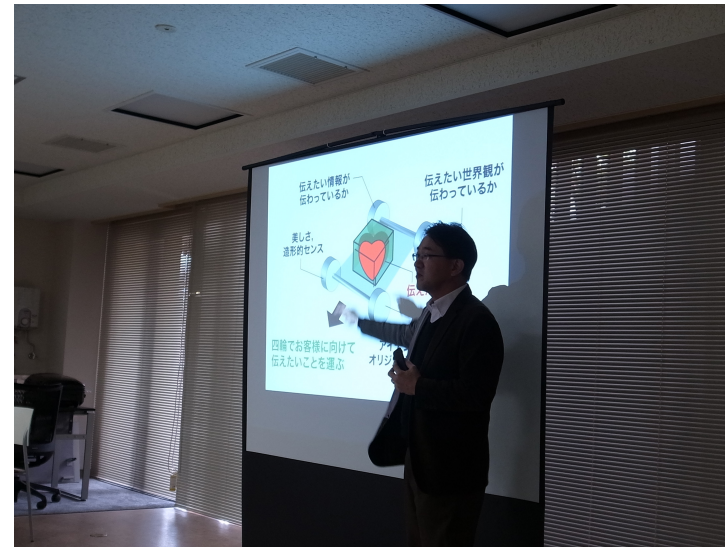
採否の通知は 11 月 11 日 (火) までにお知らせします。

お問合せ先
九州産業大学美術館 教授 緒方泉 電話 092-673-5160
メールアドレス：museum03@ip.kyusan-u.ac.jp

研修会⑤ 展示グラフィック

平成26年12月17日(水)佐賀大学

熊谷 淳一(株式会社 ノイエデザイン代表取締役)



・これまでは、自分たちの”美学”で伝えたい内容を選定したり、文章を作文したりしていましたが、実際にはそれを見てくれているお客様の「メリット」になっておらず、相手に伝わる内容になっていなかったことに気がきました。研修でいただいたチラシの評価基準を参考に、今後はもっと内容が伝わるものになるよういろいろ試してみたいです。

研修会⑤ 展示グラフィック

平成26年12月17日(水)佐賀大学

熊谷 淳一(株式会社 ノイエデザイン代表取締役)



・情報は少なく、インパクトあるものが良いと思っていましたが、情報が少ないものは、利用者の選択肢にもあがらないということを聞き、改めて博物館本位の考え方ではなく、利用者の立場からチラシやポスターを作ることの大事さに気づきました。

研修会⑥ 展示グラフィック

12月18日(木)九州産業大学

熊谷 淳一(株式会社 ノイエデザイン代表取締役)



・今回の研修でポスターは、気づかせるもの。チラシは、読ませるものという視点を学びました。また、制作する際、利用者のメリット・見てもらうためのコピー・気を引くデザイン・個性の4観点を考えることを学びました。

研修会⑥ 展示グラフィック

12月18日(木)九州産業大学

熊谷 淳一(株式会社 ノイエデザイン代表取締役)



・グループでディスカッションすることで、展示パネルは対象年齢を定めて制作しているのに(文章は大人向け、子ども向けか、ルビをどこまで書くか等)、ポスター・チラシはターゲットを考えていなかったことに気づきました。また、チラシの「裏は読まれない」ということ、チラシを「アート」と捉えていたことを改善していきたいと思います。

長崎歴史文化博物館

Nagasaki Museum of History and Culture

所在地 〒850-0007 長崎市立山1丁目1番1号
 連絡先 TEL 095-818-8366 FAX 095-818-8407
 休館日 毎月第3火曜日(月により異なる場合がある)
 ※その他メンテナンスの為休館する場合があります。
 開館時間 8:30-19:00 (ただし12/30-1/3は10:00-18:00)
 伝統工芸体験工房・貸工房 9:00-18:00 資料閲覧室 9:30-18:00
 レストラン銀嶺 10:30-21:00



国際貿易都市として栄えた近世長崎の海外交流の歴史について
 学べる博物館です(2005年11月開館)。江戸時代、長崎奉行所
 立山役所があった場所に、建物の一部を復元しています。

福岡市美術館

FUKUOKA ART MUSEUM

所在地 〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
 連絡先 TEL 092-714-6051 FAX 092-714-6145
 休館日 月曜日(ただし月曜日が祝・休日の場合は開館し、翌平日が
 休館)12月28日~1月4日
 開館時間 9:30~17:30、7・8月は9:30~19:30(日・祝日を除く)
 入館は閉館の30分前まで



水と緑に恵まれた大濠公園の中にある、前川國男設計の美術館です
 (1979年11月開館)。ダリやミロ、シャガールなど世界的な巨匠や
 黒田清輝、青木繁など九州出身画家の作品、さらに重要文化財を含む
 茶道具、仏教美術、旧福岡藩主・黒田家の美術品などを収蔵しています。

福岡市美術館

九州産業大学美術館

Museum of Kyushu Sangyo University

所在地 〒813-8503 福岡市東区松香台2-3-1
 連絡先 TEL 092-673-5160 FAX 092-673-5757
 休館日 毎週月曜日、夏季休業期間、年末年始、展示替え期間
 開館時間 10:00~17:00 (入館は16:30まで)



芸術学部を中心に収集されてきたコレクション(美術、工芸、写真、
 デザイン)を活かして、本学の芸術教育研究に役立てるとともに、
 学外にも公開し、さらに地域の方々の楽しみと学習のための活動を
 行う大学美術館(2002年4月開館)です。



Design: 宮本咲紀

九州産業大学国際フォーラム

「高齢社会における博物館の役割を考える」 —英国・レスター大学の事例から—

博物館は、
 コミュニティの
 一員である。

The museum is a member of the community.

2015.1.18 (sun) 13:00-17:00 [定員30名]
 (同時通訳あり)

会場 九州国立博物館研修室 西鉄太宰府駅より徒歩10分
 太宰府市石坂4-7-2

主催 Museum2015 実行委員会(東京国立博物館・全日本博物館学会他)、英国・レスター大学、九州産業大学、九州産業大学美術館、日本ミュージアム・マネジメント学会九州支部、平成26年度科学研究費助成事業(学術助成基金助成金)基盤研究(C)「新学芸員養成課程に対応するユニバーシティ・ミュージアムの方策研究」(研究課題番号:24501274、研究代表者:緒方泉)、平成26年度科学研究費補助金基盤研究(S)「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」(研究課題番号:24220013、研究分担者:緒方泉)



国際フォーラム

平成26年1月18日(日) 九州国立博物館

ジョスリン・ドッド(レスター大学) 竹内 有理(長崎歴史文化博物館)

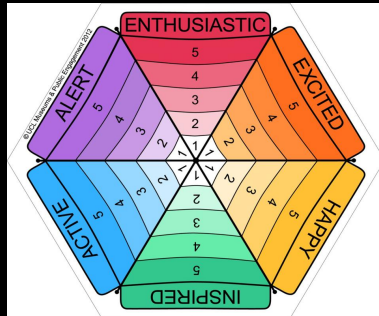
神保 明香(福岡市美術館) 緒方 泉(九州産業大学)





capturing evidence

Museum Wellbeing Measures Toolkit



<http://www.ucl.ac.uk/museums/research/touch/ucl-museum-wellbeing-measures-toolkit.pdf>



policy



Museums boost people's quality of life and improve mental and physical health. It is good for wellbeing to engage closely with collections and ideas in the presence of other people.

Everyone is entitled to an excellent museum experience that meets their needs. The best museums embody the concept of social justice by being accessible to all and offering a supportive environment for everyone, whatever their backgrounds and needs. They help improve the lives of unemployed and homeless people, socially excluded, and looked-after children. They are necessary for finding the best ways to care for people with health needs, such as those with dementia or who are frail or care homes. As the population ages, museums can do more to help improve the quality of older people's lives.

The House of Museums is central to the objects, archives and stories at the Museum of Liverpool, and uses music, drama, conversation and interpretation to engage its audience. In partnership with housing provider AJDA, through the programme provides social care staff with skills and resources to share their expertise and to use collections to provide a stimulating and rewarding experience for people living with dementia.

Alison Lewis, Department of Health, national clinical director for dementia, said: "The use of Museums to make a real difference to people with dementia is what we need the people with dementia they care for."

Working in partnership with other organisations, museums can help to provide build their skills, confidence and self-esteem. They can enable people to increase their employability, help obtain access to higher education and encourage young people to consider socially beneficial careers, such as science. They can help disadvantaged people and those from marginalised sections of the community gain a sense of citizenship and belonging to society and broader forums, which can otherwise seem narrow and unhelpful.

参加者の感想

・日本のミュージアムのエヴァリュエーション能力の弱さ、また、イギリスと日本の、大学とミュージアムの関わりの違いを感じました。ミュージアムの価値を理解しつつ、医療、経済、社会学・・・などの専門の立場から研究している大学が、イギリスには多いのではないかということが、ドッド先生の講演から垣間見られました。

・印象に残ることは、ドッド先生が言われた『博物館は高齢者にとって生活の一部になっているか』という問いかけです。私は、この問題は高齢者にとどまらず、社会全体の問題ではないかと思います。「博物館が、地域住民にとっての生活の一部になっているか？」これからの博物館に突きつけられた命題と思いました。今後「まずは博物館ありき」が認められる社会ではなくなるでしょう。そのためには、私の町の資料館・美術館も設置理念を再認識し、足場を固めなければならないと痛感しました。